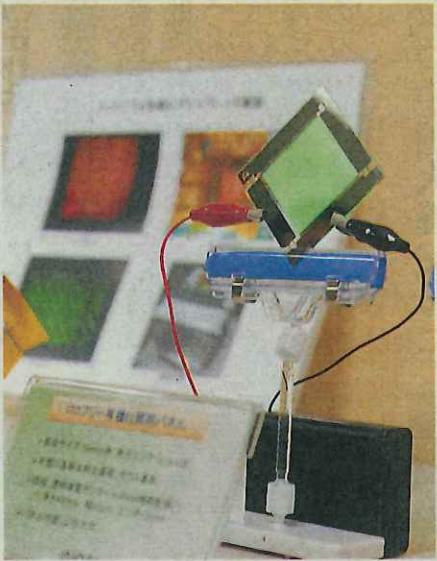


山形大と企業18社 液晶やタッチパネルに使用

# 高分子材料を開発



新材料を使った有機EL照明  
パネル  
=山形市・山形大小白川キャ  
ンパス

同大が23日の会見で明らかにした。同大有機工学レクトロニクスイノベーションセンター(米沢市)によると、新材料は「透過度が高い」「電気抵抗が低い」という要素に加え、「塗りやすい」という特徴があり、印刷に適している。同センター産学連携教授の向殿(こうでん)充浩さん、仲田仁さんら

山形大と化学大手など企業18社でつくる山形大有機薄膜デバイスコンソーシアムが、液晶やタッチパネルなどに一般的に用いられている「インジウム・スズ酸化物(ITO)」に代わる高分子材料の開発に成功した。ITOにはレアメタル(希少金属)が含まれており、生産の低コスト化が期待できるという。今後、新材料を使い、折り曲げ可能な有機EL基板などに電極を印刷する技術の確立を目指す。

のチームが、開発した材料と金属の補助配線を組み合わせ、ガラス基板を使つた5×5四方の有機EL照明パネルを作成したところ、十分な発光が得られた。

## 低成本化に期待

ITOを構成するインジウムは希少金属で供給を中国に依存していること、加え、真空装置を必要とするため製品化の過程でコストがかさみ、代替材料の開発が課題となつている。

新材料を使った有機EL照明パネルは29日から、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開かれる「プリントブルエレクトロニクス2014」で展示される。